
アンドロイドUS 029型

鳥居 瑛

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アンドロイドUS 029型

【Nコード】

N7363D

【作者名】

鳥居 瑛

【あらすじ】

研究所に数週間泊り込みで論文を仕上げ、久しぶりに自分のアパートに帰ってくるエルシー。大家のミセス・パムから「郵便物が溜まっているよ」といわれて封筒の束を渡される。ほとんどがセールスレターの封書や葉書。入り口でざっとそれらをチェックしてはゴミ箱へ放り込むが、ふと手が止まる。白い封書に珍しい手書きの文字で書かれた、セールスレターではなさそうな白い封筒が紛れ込んでいた。差出人の名前は“ライアー（L i e r：うそつき）”。

TORMENTA(嵐)

「エルシー、おかえり」

1週間ぶりにアパートに帰ると、大家のミセス・パムが管理人室から顔を覗かせて言った。

「今回もまたずいぶんと姿を見なかったけど、相変わらず忙しいのかい？」

言いながら、わたしに郵便物の束を手渡す。

「ありがと、ミセス・パム。この半年ずっと取り組んでいたロボツト工学の論文、やっと書き終わったのよ。これで数ヶ月ぶりに週末は休めるわ」

「相変わらず、難しいことやってんだねえ。まあ、あんたはちっちゃい時から頭よかったから。お父さんに似たんだね。・・・ところでエルシー、あんたもう23歳だろ？」

「22よ」

「どっちでも大して変わんないよ。いつまでも若い女が一人でいるもんじゃないよ。知り合いにさ、息子の嫁さんになってくれそうな娘さんを知らないかって聞かれてるんだよ。・・・あんた、どうだい？なんなら会うだけでも・・・」

延々と話し続けそうなミセス・パムに、わたしはあいまいな愛想笑いをしてちよつと肩をすくめた。それから、不在時の荷物を預かってくれていたことにお礼を言つて、無重力エレベーターに乗り込んだ。「気が変わったらいつでもいいなよー」という、管理人の言葉の背にして。

エレベーターが11階に着くまで、封筒をざつとチェックする。ほとんどセールスレターばかりだ。2年前に母が死んでから、わたし宛の郵便物は大学の研究室に送ってもらうようにしているので、

当然といえば当然だった。

今回も全部セールスレターかなと思っていて、束に隠れて埋もれていた白い封筒が突然姿を現した。明らかに他のにぎやかな色使いのセールスレターとは異なる、真っ白な手紙。このご時勢に手書きで「エルシー・アームストロング様」と書いてある。数日間ずっとパソコンに向かいっぱなしだったのもあって、手書きの文字を見るのは妙に新鮮だった。

思わず封筒の裏をチェックする。送り主の住所はなく、名前のみ。「라이어」と書いてある。

키
Lie r ?

これが新手のセールスレターなら、なかなかやるわね。そう思いながら封を開けてみることにした。スパムじゃないから、不用意に開けてもウイルス感染しないのがアナログメールの良いところだ。封筒の中に入っていたのは一枚の便箋と、地図のコピーだった。文面はとても短く、数行のメッセージだけ。ざっと飛ばし読みを試みる。

「エルシー・アームストロング様

初めまして。私の名前は라이어。フルネームで名乗ったほうがいいのかな？라이어・アームストロングといます。あなたのお父さん、アームストロング博士が死にました。取り急ぎご報告いたします。

라이어・アームストロングより」

読み終わって、思わず動きが止まる。もう一度ゆっくりと熟読し、読み間違いでないことを確かめる。

「・・・なんですって？」

誰もいない部屋で、私は思わず呟いてしまった。

父が、死んだ？

10年前、自分の研究成果を同僚に盗まれて発表されたショックから立ち直れず、学会から、そしてわたしと母の前からも姿を消してしまった父が？

2年前に癌で母が死んだ時、わたしは思った。母が死んだのは、突然いなくなってしまった父のせいだと。だからどこかで生きているであろう父に、恨みを抱きながら生きてきた。だが今、その恨みの矛先の相手は死んだと見知らぬ人間が知らせてきた。

信じられなかった。同時に、ぽっかりとした空しさが胸を満たした。

信じられないものは、もう一つあった。手紙の送り主の名前だ。アームストロングはわたしの姓、ゆえに父の姓だ。

同じセカンドネームを名乗るこの人物は一体、誰なのか。父は私たちの前から姿を消した後、別の女性と結婚したのだろうか？

ライアー・アームストロングと名乗る人物は相手の女性？それとも・・・娘？息子？

何より、父は失踪してからの10年、一体どこで、何をしていたのか？

答えを求めるには、あまりにもヒントが少なすぎた。

わたしは改めて、手紙と、そして同封されていた地図を見た。ここオルガニートの街から少し離れた国境の外れ、バンドネオン村の地図だった。真ん中に、赤で大きく×印が付いている。

知っていたければ、ここに来い。

×印のメッセージは、明白だった。わたしの数ヶ月ぶりの休暇のスケジュールは、こうして強制的に決まってしまった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7363d/>

アンドロイドUS 029型

2010年12月14日19時41分発行